

# スポーツ実施率向上に向けた 日本水泳連盟の取り組み (取組事例と今後の施策)

2018年11月

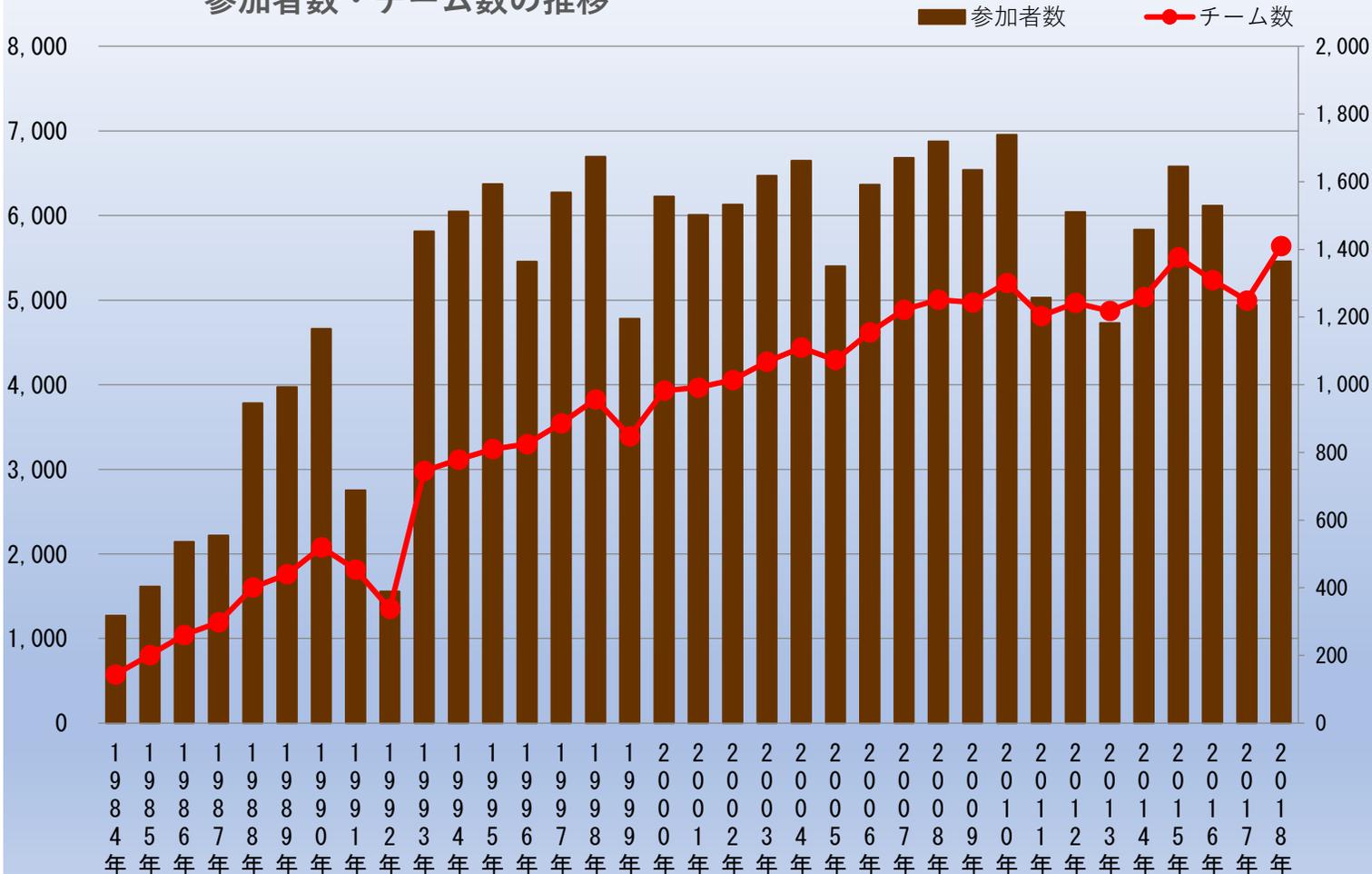
公益財団法人日本水泳連盟

# 【1】ビジネスパーソン・高齢者向け：日本マスターズ水泳選手権大会

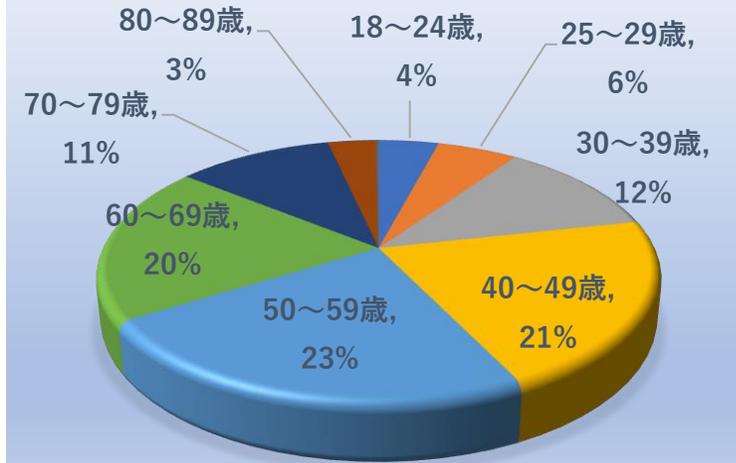
取組事例

■主催：(公財)日本水泳連盟・(一社)日本マスターズ水泳協会 ■対象：18歳以上の水泳愛好者

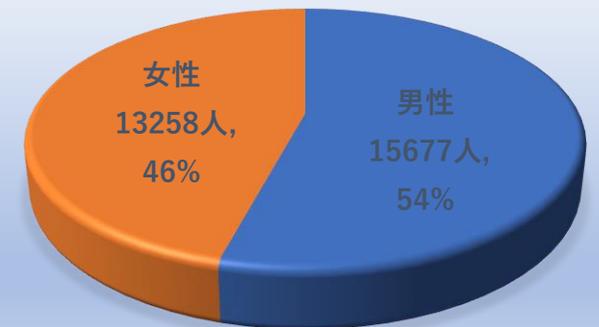
参加者数・チーム数の推移



直近5年間の参加者（年齢区分別）



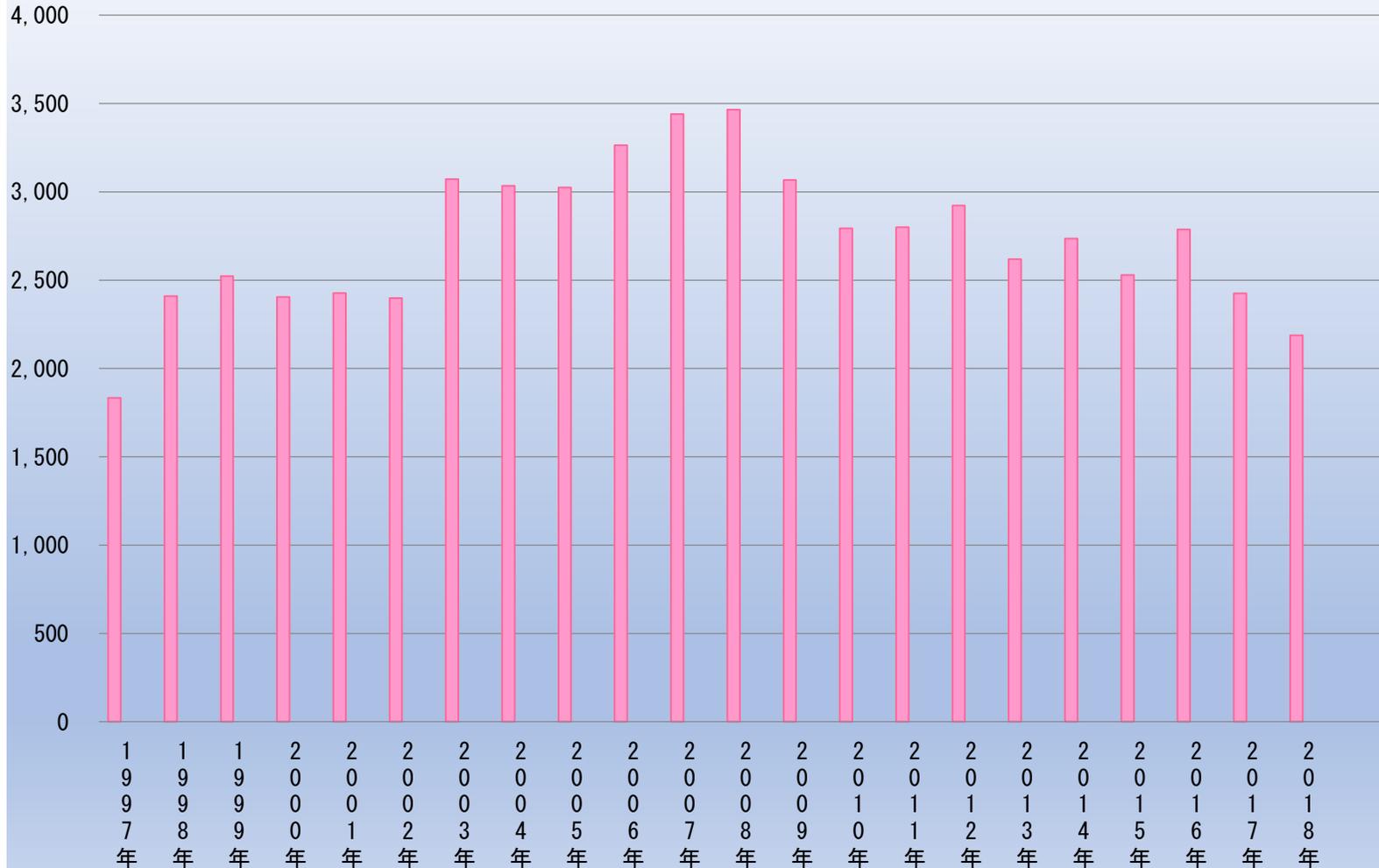
直近5年間の参加者（男女別）



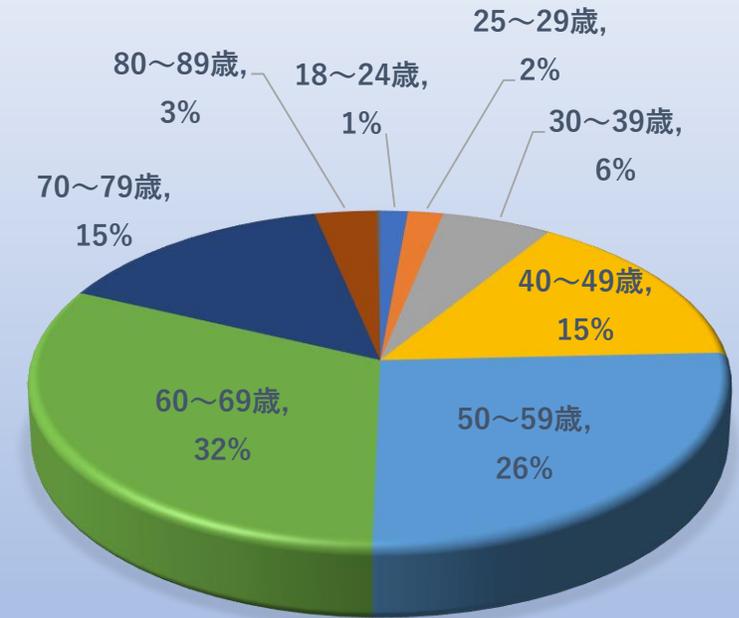
# 【2】女性向け：ウーマンズ・マスターズ水泳競技大会

■主催:(一社)日本マスターズ水泳協会 ■後援:(公財)日本水泳連盟 ■対象:18歳以上の女性水泳愛好者

参加者数の推移



直近5年間の参加者（年齢区分別）



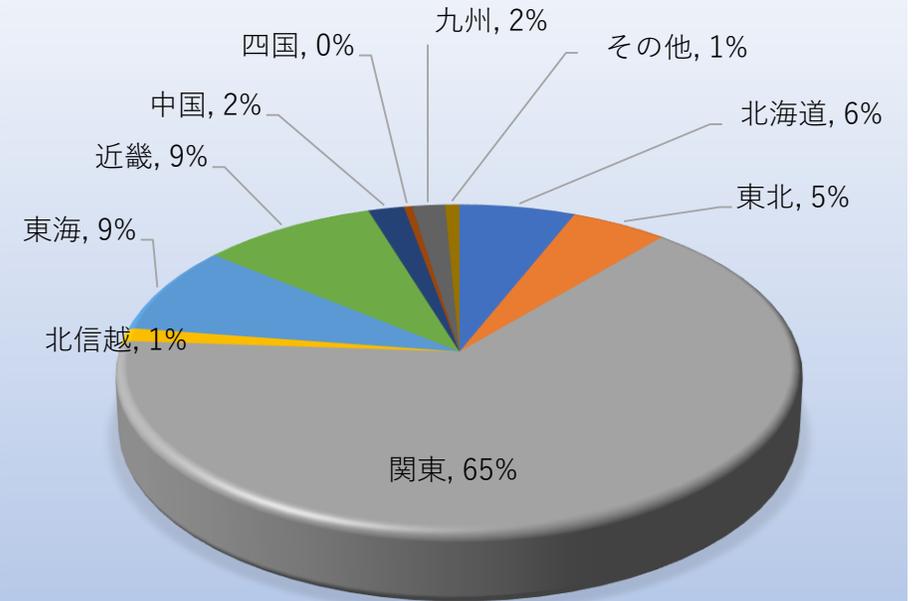
# 【3】子供・若者向け：泳力検定

■主催:(公財)日本水泳連盟 ■対象:(主に)幼児・児童・学生

受検者数・合格者数の推移



直近5年間の受検者（地域ブロック別）

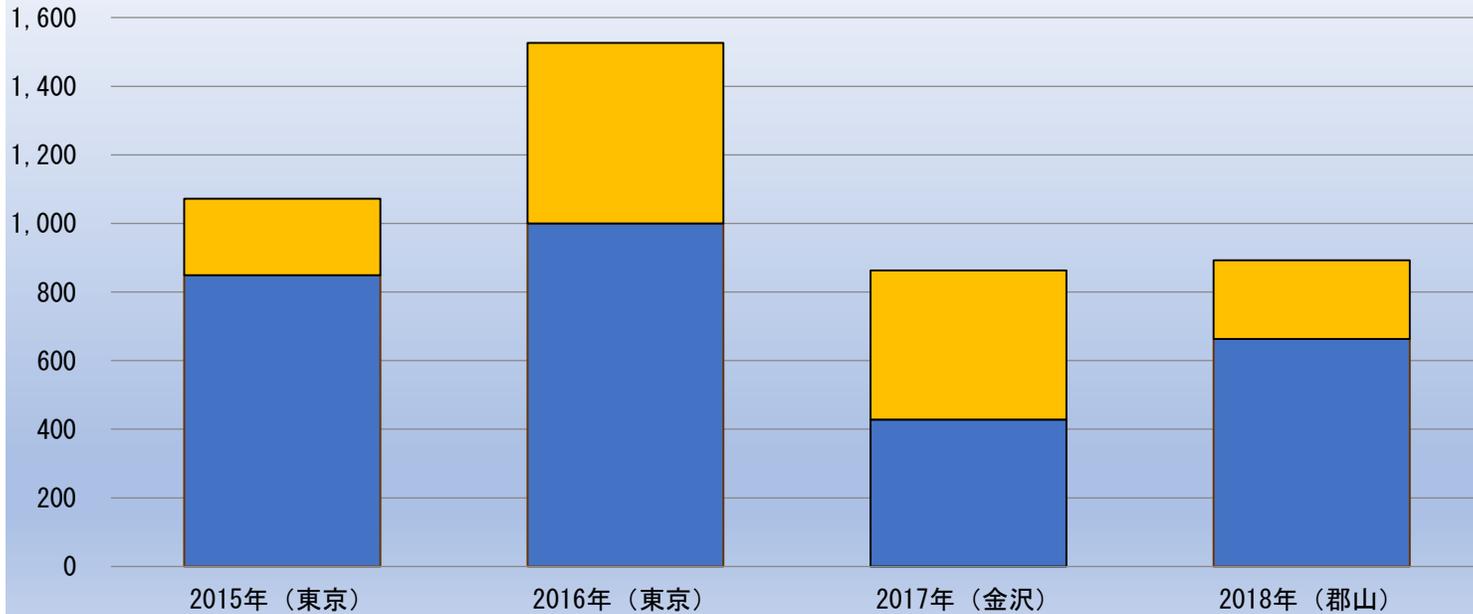


# 【4】子供・若者向け：水泳の回

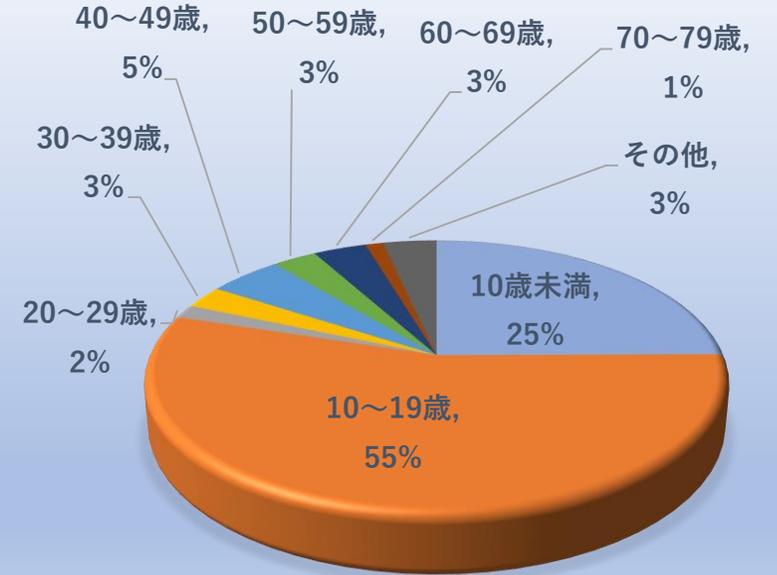
- 主催：(公財)日本水泳連盟、(一社)日本マスターズ水泳協会、(一社)日本スイミングクラブ協会、日本障がい者水泳協会
- 概要：主に幼児・児童・学生を対象とした「体験クリニック」と「参加型イベント」を柱とした水泳普及イベント

参加者数の推移

■ 体験クリニック ■ 参加型イベント



4年間の参加者 (年齢区分別)



体験クリニック	【競泳・飛込・水球・AS・OWS】 現・日本代表 (選手・コーチ)、メダリスト、オリンピックらによる体験レッスン
	【日本泳法・ウォーターセーフティー】 各流派の師範・有資格者らによる日本古来の泳ぎ方レッスン、トップライフセーバーらによる水難防止を目的とした命を守るための泳ぎ方レッスン
参加型イベント	オリンピックらと一緒に泳ぐリレーやイベントレース、泳力検定、ブラインドスイム、水中動画撮影会 (水中映像分析)、金メダリストトークショーほか

(AS：アーティスティックスイミング、OWS：オープンウォータースイミング)

# ★施策1： マスターズ国際大会開催を活用した、水泳人口の拡大

国内で開催される国際大会を通じてマスターズ水泳の認知度を一層高め、生涯スポーツとして水泳をする人口を拡大する。

(持続安定期へ)

2021年  
スポーツ実施率  
65% (目標)

2030年  
国際連合「SDGs」達成(予定)

## 第2期スポーツ基本計画期間

2017年  
スポーツ実施率  
51.5%

2018年  
第1回アジアマスターズ選手権 開催(名古屋市)

2021年  
ワールドマスターズゲームズ 開催(関西エリア)

2021年  
第19回世界マスターズ選手権 開催(福岡市)

2017年  
スポーツ庁「第2期スポーツ基本計画」策定

1997年  
スポーツ実施率  
34.8%

2015年  
国際連合「SDGs」採択



\*スポーツ実施率：成人の週1回以上のスポーツ実施率

(黎明期)  
1997年  
第1回ウーマンズ・マスターズ選手権 開催(習志野市)  
1984年  
第1回日本マスターズ選手権 開催(東京都)

# ★施策2：導入および継続を目的とした、「泳ぐ機会」の創出

登録者数と大会  
(数字から見る、選手から愛好者への移行)

登録者数	選手	一般愛好者
社会人 13374人	日本社会人選手権	日本マスターズ選手権 日本スポーツマスターズ
大学生 10711人	日本学生選手権 (インカレ)	泳ぐ大会がない (同好会インカレ)
高校生 38821人	日本高等学校選手権 (インターハイ)	泳ぐ大会がない
中学生 54277人	全国中学校 水泳競技大会	泳ぐ大会がない
小学生 54817人	JOCジュニアオリン ピックカップ	泳ぐ大会がない

▲ 28110人  
受け皿 必要

▲ 15456人  
受け皿 必要

\* 登録者数は2015年度の数値

日本水泳連盟

日本マスターズ水泳協会

日本スイミングクラブ協会

## ■ 水泳3団体連携による大会の創出

水泳経験者に水泳を継続させることを目的とした、水泳3団体（日本水泳連盟、日本マスターズ水泳協会、日本スイミングクラブ協会）による連携体制の強化

「同好会インカレ」など、受け皿となり得る大会の早期開催

## ■ 水泳の回と連動した泳力検定の全国展開

水泳をする気にさせ、水泳を習慣化させる導入ツールとして、泳力検定を水泳の日と連動して全国に展開（検定実績の地域差の改善にも期待；3ページを参照）

# ★施策3：水泳の回 の全国展開

## 事業立ち上げ

東京辰巳国際水泳場にて  
開催  
(2015年)

## 第1フェーズ

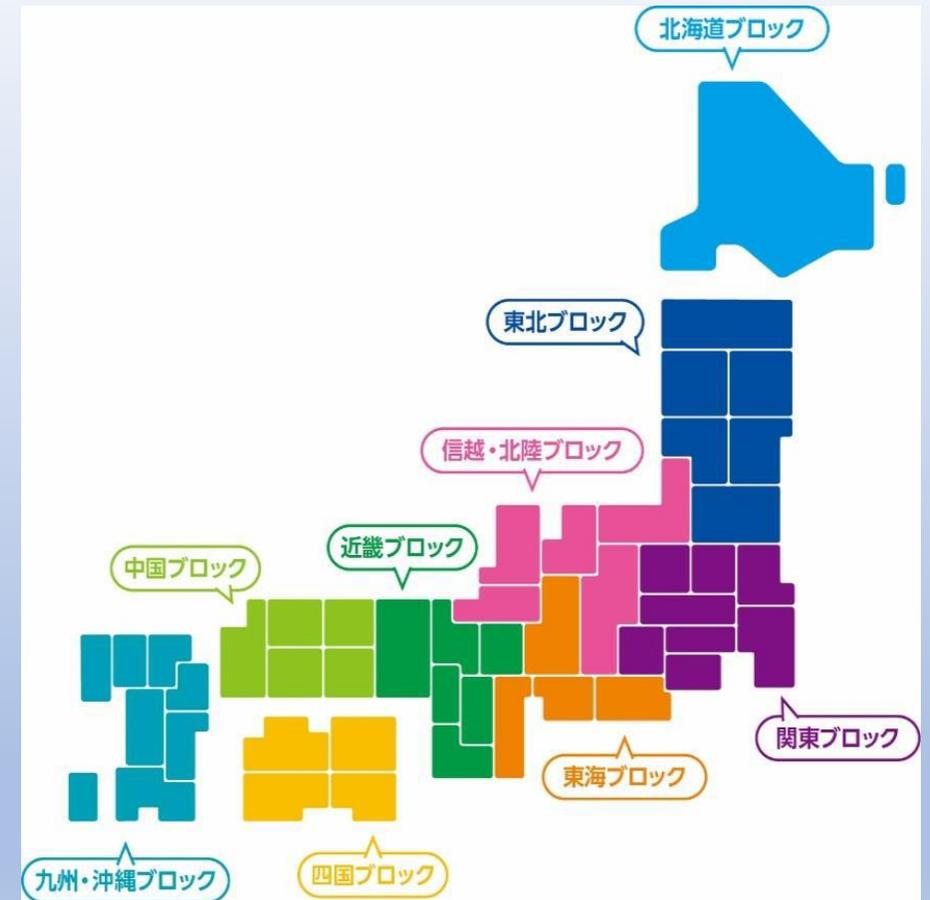
全9地域ブロックにて  
持ち回りで開催  
\*メイン会場の持ち回り開催  
(～2024年)

## 第2フェーズ

全9地域ブロックにて  
毎年開催  
\*うち1会場がメイン会場  
(2025年～)

### メイン会場 と サブ会場

メイン会場：日本水泳連盟が主催し、各地域ブロック持ち回りで開催  
サブ会場：加盟団体（都道府県水泳連盟）等が主催し、独自に開催



都道府県水泳連盟等の地域ブロック区分  
(日本水泳連盟 加盟団体規程 第4条)